

「花園町通り」の道路空間再配分

賑わいと交流を育む

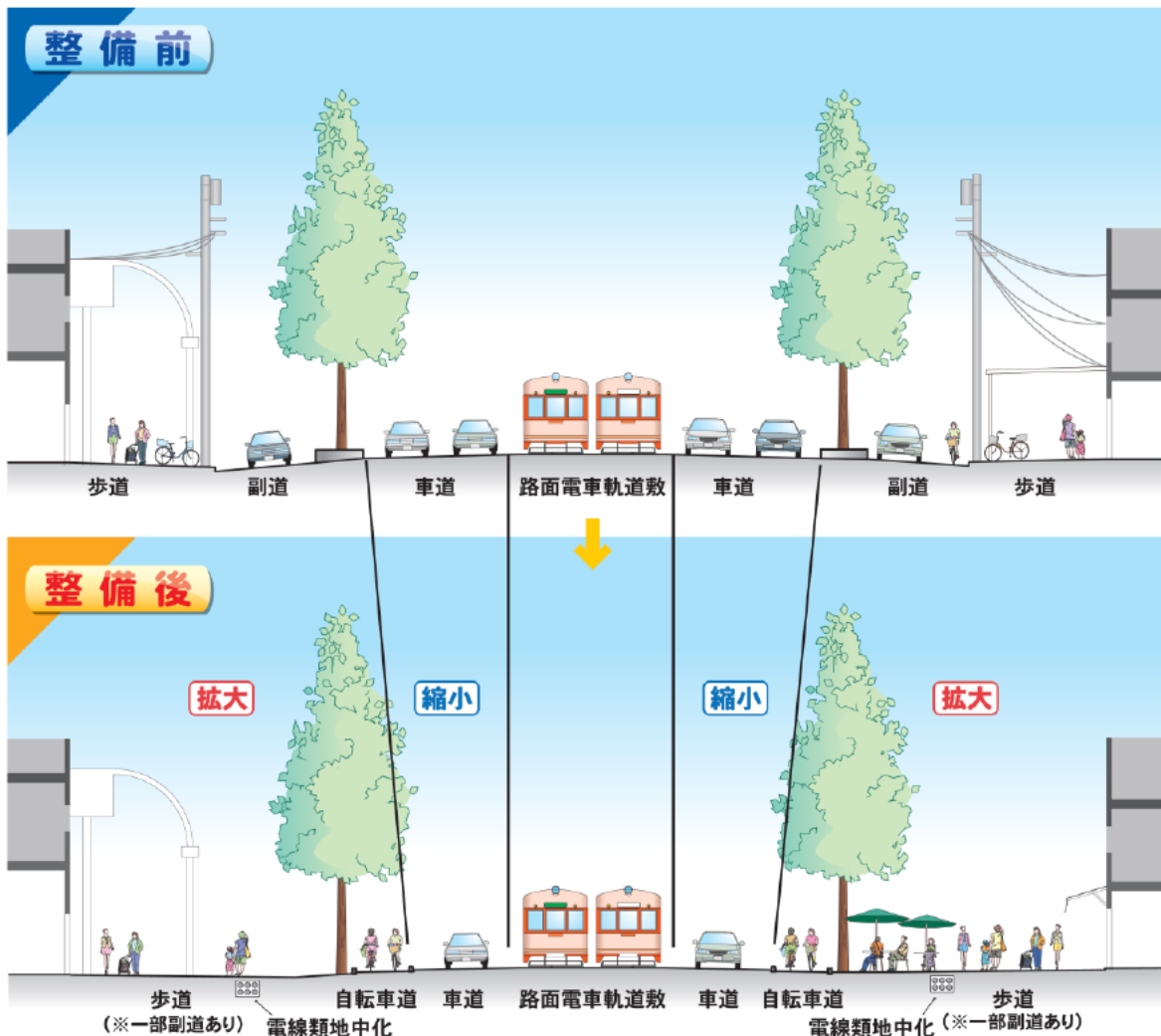
「広場を備えた道路」

- 松山市では、少子高齢化が進む中で、歩行者や自転車といったゆっくりの交通に配慮したまちづくりを目指しています。
- 堀之内と松山市駅を結び、市内で最も広い道路の幅を持つ「花園町通り」では、「歩いて暮らせるまち松山」の新たなシンボルロードとして、無電柱化と道路空間の再配分を進めてきました。
- 俳人・正岡子規の生誕地でもあるなど、多くの「宝」がある「花園町通り」では、道路空間の再配分によって、安全・安心で、かつ、人々の「憩い」や「賑わい」を育む空間になりました。

【位置図】



【道路空間再配分のイメージ】



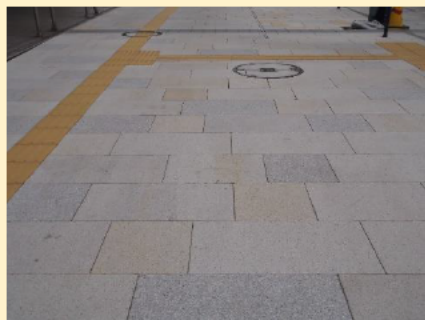
【事業概要】

事業期間：平成23～29年度
 延長：L=250m
 幅員：W=40m
 総事業費：約12.5億円
 整備概要：電線類の地中化
 片側2車線を1車線に縮小
 自転車道の新設(W=2m)
 歩行空間の拡幅(W=4～10m)

【花園町通りの特徴】

1. 「自然素材」を使用

- ✓ 自然石、鉄などの本物の質感を活かし、自然豊かな松山城へ続く道路に相応しい素材を使用



歩道は自然石



自転車道は洗出しコンクリート骨材に自然石(猿投石)を採用

2. 「建物」と「道路」が一体となった整備

- ✓ 地元が中心となった建物のファサード整備により、「通り」の一体感を演出



整備前(アーケード撤去前)



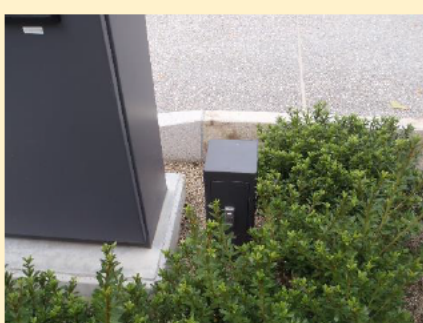
整備後(ファサード完了)

3. 「人々の活動」を促進する仕掛け

- ✓ 歩道内にベンチや広場(ウッドデッキ)を整備
- ✓ イベントなどに使用可能な設備(給水・電源)を設置



ウッドデッキ・ベンチ



イベント用の電源設備

4. 「歴史」と「文化」を感じる空間

- ✓ 正岡子規の生誕地にちなみ、照明灯の文字には子規の直筆を引用
- ✓ 子規が俳句で詠んだ草花を植栽するとともに、俳句ポストを設置



通り名には子規の直筆を採用



俳句ポスト・子規ゆかりの植栽

「花園町通り」の道路空間再配分

事業開始から完成までの過程

- 松山市では、子どもからお年寄り、障がい者の方まで誰もが笑顔で生き生きと暮らしやすいまちづくりを目指し、平成23年度から「歩いて暮らせるまち松山」を象徴する新たなシンボルロードとして、「花園町通り」の道路空間再配分の検討を始めました。
- 地元住民や関係機関、各分野の専門家と話し合いを進めながら、再配分後の効果検証や景観デザインの検討を進めました。

【整備前の様子】



大量な放置自転車



暗い歩行環境



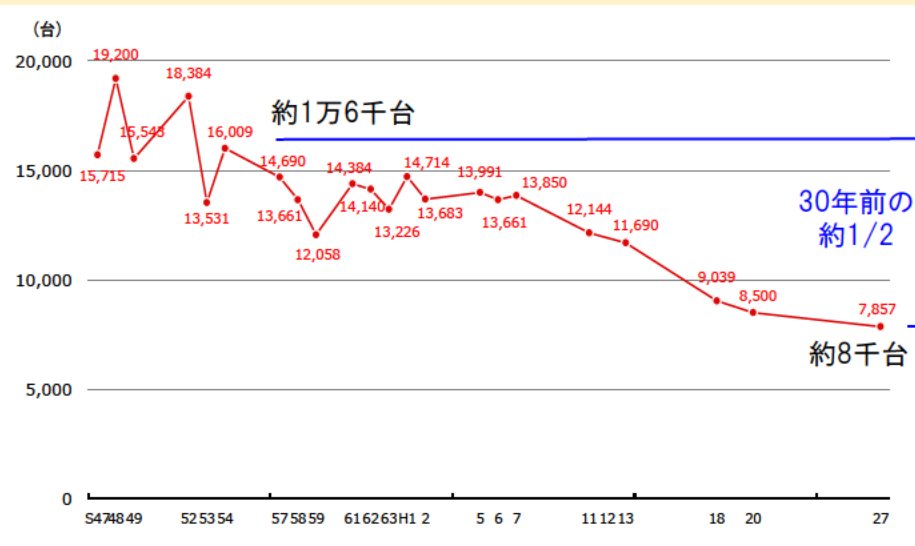
多くの空き店舗



有効に活用されていない副道

【通りの変化】

自動車交通量は、ピーク時の約1/2まで減少



【検討過程（地域との協働）】

●花園町通り空間改変事業懇談会

- ✓ 学識経験者、行政、交通事業者、地元代表者などにより、活発な議論を展開。



●地域とのコミュニケーション

- ✓ 地元説明会や商店街が主催する会に加え、地権者やテナントを戸別訪問
- ✓ あらゆる機会をとらえ、事業周知や進捗状況報告を実施

●ワークショップ

- ✓ 地域住民や学生、公募等の参加者と空間の活用方法について意見交換



学生も交えた意見交換



現地まち歩き



出された様々な意見



現地の銀杏の木を活用したDIY

【合意形成（様々なツールの活用）】

整備後のイメージを共有できるよう事業の進捗度合いに応じて様々なツールを活用

会議などに参加できない方への情報提供

news letter 04 花園町通り空間改変事業



ニュースレターの発行



模型によるイメージ共有



交通流シミュレーションによる検証
整備が交通に与える影響を確認



テント（単色）



テント（多色）

3次元CGを用いた景観シミュレーション
整備後のイメージを比較検討しながらデザインを決定